



No. 9

モンテッソーリ教育ってなに? 2009年1月

前回『言語』のプログラムの「話しことば」について紹介しましたが、今回は「書きことば」についてご紹介したいと思います。

言葉の敏感期にいる子どもは、話しことばを聞き、話せるようになると文字についても自然に興味を示すようになります。(大体4歳の誕生日を過ぎる頃)

子どもたちは人間社会の言語環境の中で生活するうちに、自然に母国語を習得してきたように、文字についても生活の中でかなりの部分を習得していきます。

モンテッソーリ教育では、この時期にタイミングよく確かな指導がなされています。それは決して小学校への準備だけでなく、人間として生きていくための1つの手段として当然身につけなければならない能力への援助として広義にとらえることが大切です。

【書くための手の準備】

モンテッソーリ教育では直接導入する(紙と鉛筆で文字を書くこと)以前に必ず長い期間をかけて間接的に準備がなされています。

その準備とは…??

<日常生活>…手首、指先の機能訓練、鉛筆を持つための3本指でつまむ活動を行う。

例えば ⇒ つまようじさしでは、指先を使い、穴につまようじを入れます。



※ お盆を運ぶことも腕の力をつけることにつながります。

<感覚教具>…鉛筆をもつための3本指の準備、鉛筆を持って書く時に必要な筆圧のコントロールの準備、手首の柔軟さの準備、手を決まった順序で動かす準備につながります。

例えば ⇒ はめこみ円柱では、3本の指でつまみ、同じ大きさの穴に入れます。3本指の準備と筆圧のコントロールにつながります。

☆間接的な長いながい準備を経た子どもは、読むことよりも書くことを早くはじめます。

「書くこと」は2種類の運動が行われています。

- ①書く道具(筆記用具)の操作→教具として鉄製はめこみ
- ②形(文字)の表現→教具として砂文字、彫文字、かべ文字、五十音の積木など

今回は、②の教具 かべ文字を紹介します。

☆ かべ文字の紹介の前に、五十音の歌をよく歌っておきます。

♪あひるのえんそく	あいうえお	〃	〃
かめさんまけるな	かきくけこ	〃	〃
さるさんするする	さしすせそ	〃	〃
たぬきがとことこ	たちつてと	〃	〃
なますがぬるぬる	なにぬねの	〃	〃
はちさんはたらく	はひふへほ	〃	〃
まつむしみつけた	まみむめも	〃	〃
やぎさんやさしい	やいゆえよ	〃	〃
らくだにゆられて	らりるれろ	〃	〃
わしのこわをかく	わいうえを	〃	〃

- ① 先生がかべ文字を1行はずし、五十音の歌をうたう。
- ② 子どもが好きな行を持ってきて五十音の歌をうたう。
- ③ 先生が五十音の歌を歌い、子どもがその歌った行をもってくる。

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	い	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い
	う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	え	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え
	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お